

動物の親子

上野動物園長 古賀忠道

すべての動物はお母さんから子供が育てられていく。お母さんからお乳をもらい、餌さをもらつて大きくなつていく。お母さんのお乳で育つていく仲間をほ乳類、ほ乳動物といいます。日本では熊が一番大きいつきの輪ぐまという熊です。北海道にはひぐまという熊がいます。アフリカなどにはライオンがいます。1・2・3頭ぐらい群れになつています。そうしてキリン、シカ、牛などをおそつてその肉を喰つています。ライオンというとおそろしいと思いますが、子供は可愛いものです。特に生れだちの赤ん坊は実に可愛いものです。生れた時から樺色の毛が生えています。ヒョウは点点がありますが、ライオンはありません。一度に2頭か3頭生れます。生れだちは草や木の陰でお母さんのお乳を呑んで育ちます。ライオンはねこ科の動物でねこによく似ています。爪はふだんはかくされていますが、獲物をつかまえる時や敵にあうと爪を立てむかつてきます。子供を運ぶ時には首の所をくわえて行きます。ねこが子供を可変がることはよく知つてゐるでしょう、からだじゅうなめ廻します。特にお尻の所などでいねいになめてやるでしょう。ライオンもねこにまけずよくなめてやります。どうしてお尻をよくなめるかといいますと、べんや小便が出やすくなるのです。お尻をなめても、きたないなどとは決して思ひぬらしい。

親の乳の出がわるくなるとバターか牛乳を呑ませます。

ライオンはどんな声ではほえるか知つてゐるでしょう。子供はギヤオーギヤオーとなきます。

2・3時間するとお尻をなめては、ふんや小便が出やすいようにしてやります。

驚いたり、おこつたりすると、子供の事が心配な余り、自分の子供を殺してしまう事もあります。だから飼育の係の人は非常に気をつかいます。一生懸命です。びつくりさせないように腹を立てさせないようにほんとうに気をつかいます。

河馬も動物園で子供を産みました。河馬は豚のように親が横にねます。足を上に上げてやると子豚は乳房に吸いついてお乳を呑むのです。人間はお乳は2つですがだものは四つ、六つ、八つなどたくさんあります。

河馬は水の中でお乳を呑むのです。人間でも物を呑む時はいきをしません。河馬は水にもぐつてお乳を呑みます。いきをするときは水の上に鼻を出していきをして、又もぐつてお乳を呑みます。

牛や馬は親も子供も立つたまゝでお乳を呑ませたり呑んだりします。

河馬もライオンのように赤ん坊のからだをよくなめてやります。ライオンは3年位で河馬は4年位で大人になります。

鳥もけだものと同じように、親は子供を可変がります。

ツルは1ヶ卵を生むと2日おいて又1ヶ産みます。そして2ヶ、3ヶの卵を産むと、おす、めす交代で卵をあたためて雛をかえします。めすが卵を産んでいる時、卵をあたためている時必ずおすは近くにいてばんをしています。飼育の係の人もこの時は要心して入ります。油断をしているとおすがかかつて来ます。くちばしでつゝかれたり羽でたたかれたりします。ツルは卵をだいてから3日目で雛にかえります。生れだちは茶色でピヨピーヨとなく、えさは、どじょう、小魚ですが、親がくわえて、雛の口先へもつていつてやらぬと食べない。下においていたのでは決して食べない。さぎ、ペリカンなどは親が口の中へたくさん餌を入れて来て、子供は親の口の中へくちばしを入れて餌をもらうのです。

ツルは育ちが早く、3ヶ月位で親と同じ位になります。空も飛べるようになりますが、からだの色は茶色がかつたきたい色をしているので、親か子供かすぐわかります。

日本には、北海道の釧路に200羽程います。子供が大きくなると人間と同じように2羽づつ仲よく独立して生活をするようになる。

あなた方のお父さん、お母さんはあなた方が早く立派な人になつて独立して生活が出来るように一生懸命育てて下さる。動物も同じです。子供が独立して生活が出来るようになるまで、ほんとうに一生懸命、命がけで子供を育てるのです。

自然保護と動物

動物の保護ということは外国でも日本でも相当盛んになつて来ている。人間が多くなるにつけてこうした事の大切な事が痛切に感じられる。国際的にも考えねばならぬ事で現在では3年に一度協議会を開いている。

地球上の事は一つのバランスの上に立つてゐる。人間の病気はからだのバランスがとれなくなつた時の現象である。

地球上のバランスが破れる、それが地球上にどう影響するかということは別にして、それが人間の生活に被害がなくても他の動物のためには住がおびやかされたり、食物がなくなつたりしてその生活がおびやかされ、結果的には動物が減つて行く。

存在の権利は人間だけのものではない。動物も植物も一様にこの権利を持つてゐる。

動植物には種属保存のために（最も基本的なことではあるが）これを保護しなければならぬ。保護しなければ滅亡してしまう。生物が地球上に適しない事になる時は亡びて行く、自分の種属を繁栄させて行くには他の者をおさえて、勝つて行かねばならぬ。そういう意味では戦争も起るのである。その結果として表面的には統一は出来るかも知れぬが根本的に統一することは絶対に